

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画	開講学科	建築設計研究科(インテリアコース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2022年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	長嶋 高志(建築設計事務所で、主に個人住宅、大規模な集合住宅などの設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	2級建築士試験の学科Ⅰに合格するための知識を修得し、本試験において20点以上獲得できる実力を養うことを目標とする。授業項目順に講義を行い、理解度テストや過去問題演習等を実施する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 科目ガイダンス	教材の説明と授業の進め方
第2～3回	2. 環境工学 気候・空気	気象・気候 室内空気 空気 空気汚染
第4～5回	熱	伝熱理論 結露 断熱 内断熱と外断熱 断熱・機密性能と省エネルギー ガラスの遮熱
第6回	光	採光 日照と日影 日射
第7～8回	音	音の性質 吸音・遮音 残響・反響 騒音
第10回	色彩	光の三原色・色の三原色 色彩の表示 色彩と心理 安全色
第11回	計画原論 用語	用語・単位
第12～13回	3. 建築設備 空気調和設備	空気調和設備 熱源設備 暖房機器 蓄熱式空調システム 省エネルギー設備
第14～15回	給水設備	給水設備 給湯設備とガス設備
第16～17回	排水・衛生設備	排水設備 衛生器具設備 排水処理・排水再利用
第18～19回	電気・照明設備	電気設備 照明設備
第20～21回	消火・防災設備	消火設備 自動火災報知設備 防火・排煙設備 避難誘導設備 避雷設備 防災計画
第22～23回	省エネルギー	環境保全の評価基準 省エネルギーの評価 省エネルギー・環境保全に配慮した手法
第24回	建築設備 用語	用語
第25～26回	4. 計画各論 住宅建築	住宅 集合住宅
第27～28回	商業建築	事務所建築 店舗建築 宿泊施設
第29～30回	文化施設	劇場 美術館・博物館 コミュニティ施設
第31～32回	教育施設	学校建築 図書館建築
第33～34回	医療・福祉施設	医療施設 社会福祉施設
第35～36回	各部計画	自動車関連施設 高齢者や身体障害者等に配慮した建築物の計画 各部寸法等
第37～38回	建築生産	プレファブ工法の種類 木造住宅工法
第39～40回	都市計画	都市計画 住宅地の計画
第41回	計画各論 用語	用語
第42～43回	5. 建築史 建築史	日本建築史 西洋建築史 近代建築史
第44～48回	6. 問題演習 過去問題	過去問題演習
第49～51回	演習問題	総まとめ問題演習

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規	開講学科	建築設計研究科(インテリアコース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2022年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	2級建築士試験科目での法規は、学科試験4科目の中の一つの重要科目である。1・2年での基礎をふまえて、2級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、試験対策の実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第29回 第30回～ ～第51回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	ガイダンス 用語の定義 確認申請 面積・高さ 手続き 採光 一般構造① 一般構造② 用途地域 避難施設 構造 防火区画 内装制限 建築士法 高さ制限 雑則 その他関連法令

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築構造	開講学科	建築設計研究科（インテリアコース）	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位（102時間）	開講・履修期	2022年度・1年（前期）	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔（建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	2級建築士学科試験に向けて、構造力学及び一般構造について基本概要を理解し、応用問題にも対応可能な試験対策を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で基本概要及び例題の解説を行い、そのうえで演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	ガイダンス 構造力学	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説 力のつり合い 反力 応力 トラス 断面の性質 座屈 応力度
～第30回	一般構造	荷重・外力 構造計画 地盤・基礎 木造 鉄筋コンクリート造 鉄骨造 壁構造 その他構造
第31回～	演習問題	
～第56回		

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	建築設計研究科(インテリアコース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2022年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之（建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	2級建築士試験 学科Ⅳに合格するための知識を修得し、本試験において20点以上獲得できる実力を養うことを目標とする。授業項目順に講義を行い、理解度テストや過去問題演習等を実施する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、試験対策の実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	学科試験対策	ガイダンス
	学科試験対策	契約・施工計画・管理計画
	学科試験対策	仮設工事
	学科試験対策	地盤・土工事・基礎
	学科試験対策	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事
	学科試験対策	鉄骨工事
～第29回	学科試験対策	木工事
	学科試験対策	コンクリートブロック工事・ALCパネル工事
第30回～	学科試験対策	防水・屋根工事
	学科試験対策	左官・タイル・石工事
	学科試験対策	塗装・建具・ガラス工事
	学科試験対策	内装・改修・設備工事
	学科試験対策	施工機械・器具・測量
～第51回	学科試験対策	積算・見積り
	学科試験対策	問題演習・試験対策

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週

製図専門課程（工業）

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第26回	担当教員との質疑応答 学生同士による勉強会 1名～数名による補習講義 自習形式による学習	原則、講義科目であるが、自習形式又は少人数による補習講義となる。そしてこの授業では、学生が決められた科目ではなく、自分で遅れている科目、苦手な分野など見つけ、そこを各々で強化するための授業とする。しかし授業には毎回、必ず、1名から数名の各担当教員が入り、学生からの質問を受け、指導できる体制である。また、1名～数名程度で補習授業を頻繁に行う。学生個々の、学習の進捗状況・到達度の差をカバーするための授業とする。

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計製図	開講学科	建築設計研究科(インテリアコース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	10単位(328時間)	開講・履修期	2022年度・1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	2級建築士試験の二次試験である設計製図試験のための知識・技術を修得し、本試験において必ず合格できる実力を養うことを目標とする。 授業項目順に講義・演習を行い、後半は模擬試験形式で実力を養い試験に備える。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第45回	製図試験対策 製図試験対策	ガイダンス 各図面の作図手順説明・演習 平面図 屋根・床伏図 断面図・立面図 部分詳細図 作図トライアル
第46回～ ～第80回	製図試験対策 製図試験対策	課題文の読取り手順説明・エスキス演習 課題文の読取り方の説明 エスキスに使う単位の説明 敷地の使い方(有効利用)の説明 プランニングの基本を説明 建物の想定床面積の計算 エスキスの実践
第81回～ ～第115回	製図試験対策 製図試験対策	製図試験対策・・・課題文の読取り・エスキス・作図 試験時間5時間で完成させるための練習
第116回～ ～第164回	製図試験対策 製図試験対策	製図試験対策・・・模擬試験 模擬試験形式で課題をこなし、多様な課題に対処できるように練習

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	環境デザイン	開講学科	建築設計研究科(インテリアコース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度・1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	高橋 翔（建築設備設計事務所にて庁舎や商業施設、病院等の設備・照明設計監理の実務に現在従事している経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「環境デザイン」では、これまで学んだ建築・インテリアの知識を基に環境というキーワードに基づいて、実際の建築物をリサーチし、デザインを構成する環境の考え方や仕掛けを紐解いていく。特定の建築物や類似する用途等を比較するなどフォーカシングしたリサーチにより、建築設計のより実務レベルのプロセスを学ぶ事を目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全て個人によるものであり、コンセプトを具体的な空間にまで作り上げることは、本科で学んだ多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第4回	1. スケジュール・課題内容説明	①スケジュール及び課題内容説明。 環境デザインという概念をどのように解釈するか整理する。 各々で環境に関わるテーマを定める。
第5回～ 第14回	2. 調査・分析	①各個人別にリサーチする建築物を決定する。 ②テーマに基づき、どのような視点でリサーチするのかまとめる。 ③複数回のリサーチを各自行う。
第15回～ 第16回	3. 中間報告面談	各自個別に定めたテーマや視点の整理。どのような方向性でまとめるか報告を行い、各自にアドバイスをを行う。
第17回～ 第30回	4. 詳細計画	①中間報告面談を経てのブラッシュアップ期間。
第31回～ 第34回	5. プレゼン・講評 最終提出	①各自まとめた内容をクラス発表。講評を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	デザインサーベイ	開講学科	建築設計研究科(インテリアコース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度・1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石橋 弘次(建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネート業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	日々動き続ける街の「要素」に注目し、記録や実測を重ねることで、その「要素」に対してより深く考察、探究することを目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする授業。はじめに街歩き期間を実施し、集中して町を観察する力、視野を広げる力を習得。グループワークにより、自発的に考察、行動力を身につける。 最終提出物においては、デザインサーベイの意義を理解し、各自適切なテーマを選定、適切な調査方法を選択した上で、密度ある調査量を保持し、効果的なレイアウト、提出形式にて表現、発表する事が特徴となる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	街歩き実習1	オリエンテーション「デザインサーベイとは何か」
第3回～		街歩き練習 渋谷編
第5回～		街歩き「佃島・月島・築地」編
第7回～		街歩き「神谷町・六本木・麻布・広尾」編
第9回～	テーマ選定	講義「テーマ選出に関する行程、留意事項」
第11回～	街歩き実習2	街歩き「目黒・高輪・品川」編
第13回～		街歩き「上野」編
第15回～		街歩き「音羽・神楽坂」編
第17回～		個人面談「テーマ企画書提出と相談」
第19回～	プレ調査	講義「調査の手法と留意点」「中間発表の内容説明」 調査日
第21回～	中間発表	「中間発表会」講評
第23回～	3. 調査・編集	個人面談「テーマ、調査内容の修正」
第25回～		個人面談「進捗状況と細部修正」
第27回～		講義「提出形態と製本方法」
第29回～		編集作業
第31回～	提出日	デザインサーベイ製作物提出日
第34回	最終発表会	「最終発表会」講評

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デジタルファブ리케이션	開講学科	建築設計研究科(インテリアコース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度・1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	高畑 真澄 (CGパース事務所を主宰する実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	・建築の設計やインテリアのデザインにおいて、プレゼンテーションを行う際に、2次元の図面である平面図や立面図等は専門家ではない施主に取っては、理解しにくいケースもある。それに対して、3次元の立体として表現するパースは空間のイメージを伝えるのに有効なツールとなる。この授業では、3DCGのソフトである「3ds Max」を使用して、CGパースの技術を身に付けることを目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、CGパースの実務において汎用性の高い3ds Maxの基礎から応用までを習得し、前半には与えられた課題を作成する。また、後半には各自の設計作品のCGパースを作成し、ポートフォリオ作成にも役立てる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	・授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
	2. インストール	・アプリケーションのインストール。無償教育版の申込みを行う。
第2回～ 第4回	3. 外観パース(基礎)	・基本操作と図面の読み込み
第5回～ 第7回		・建物をモデリングする
第8回～ 第10回		・カメラの設定とアングル
第11回～ 第13回		・外観マテリアルの設定
第14回～ 第16回		・外観のライトと環境設定・レンダリング
第17回～ 第19回	4. 内観パース(応用)	・室内空間をモデリング
第20回～ 第23回		・家具・小物をモデリング
第24回～ 第26回		・内観のカメラとアングル
第18回～ 第19回		・内観の外光とライティング
第27回～ 第29回		・内観マテリアルの設定
第30回～ 第32回		・内観のレンダリング
第33回～ 第34回	5. V-Ray	・V-Rayでの設定

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築研究	開講学科	建築設計研究科(インテリアコース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度・1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	インテリアの質感・雰囲気にとって大事な要素である、光(自然光)の扱い方を学ぶ。光は、CGや画像ソフトでは自らの思いのままに加工できてしまうが、実務において実現させる空間では様々な建築的操作によって行うことになる。「光と、その独特な雰囲気は、実際にはどうすればつくり出せるのか」、それを分析することが目的である。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする授業で、以下の手順による。 (1)はじめに、分析対象として、光に特徴のある事例(内観写真)を選定、その光の質感を観察・言語化。 (2)次に、その内観写真の高精度な再現を目指し、「再現模型」を作成・検討を繰り返し、模型写真を撮影。 (3)最後に、「光の取扱説明書」として、模型実験より確めた光を生み出すための要因について、レポートを作成。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	ガイダンス	授業の目的・スケジュール、前年度作品の紹介、事例の及びその資料の探し方
第3回～	事例選定・観察	分析対象とする事例の選定、その光の質感の観察・言語化 模型作成に必要な図面・写真等資料の確認
第5回～		
第7回～	中間提出(企画書)	選定した事例と、その光の質感についてまとめる
第9回～	模型作成	独特な光が生じる要因となるものを分析・考察するため、「再現模型」を作成 模型づくり方の検討(縮尺・素材)
第11回～		
第13回～		模型の再検討・修正
第15回～		
第17回～		
第19回～		再現模型の写真撮影(方角、時刻、周辺環境などに着目して調整) 事例の内観写真と、作成した再現模型の写真とを比較し、再現精度の確認
第21回～		
第23回～		完成
第25回～	レポート作成	光のしくみを分析・解説する「取扱説明書」の作成 事例にみられる光の質感を実際に生み出すために必要となる要素を分析 空間構成や開口部、敷地配置・時刻・季節(太陽との関係)、素材・材質などに着目
第27回～		
第29回～		
第31回～		
第34回	最終提出(模型・レポート)	再現模型、取扱説明書(レポート)の提出、展示

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリア資格講座	開講学科	建築設計研究科(インテリアコース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	長嶋 高志(建築設計事務所で、主に個人住宅、大規模な集合住宅などの設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	インテリア産業協会が実施している「インテリアコーディネーター資格試験」の合格を目標にして、その1次試験及び2次試験の対策を行う授業である。また、その授業で講義する内容は、建築やインテリアの業界で必要となることでもあるので、実務で役に立つことも念頭に置いている。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第2回 第3回～ 第4回 第5回～ 第8回 第9回～ 第12回 第13回～ 第14回 第15回～ 第17回 第18回～ 第19回 第20回～ 第21回 第22回 第23回 第24回	1. 1次試験対策(学科)	① 住宅と社会 ② インテリア販売 ③ インテリアの歴史 ④ インテリア計画 ⑤ 色彩と造形 ⑥ 家具 ⑦ ウインドウトリートメント ⑧ 各種エレメント ⑨ 1次試験模擬試験1 ⑩ 1次試験模擬試験2 ⑪ 1次試験模擬試験3
第25回～ 第26回 第27回～ 第28回 第29回～ 第30回 第31回～ 第32回 第33回～ 第34回	2. 2次試験対策 ・プランニング試験対策	① プランニング過去問題演習1 ② プランニング過去問題演習2 ③ プランニング過去問題演習3 ④ プランニング過去問題演習4 ⑤ プランニング過去問題演習5

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週